

トラック輸送情報（平成17年6月分）

平成17年9月13日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

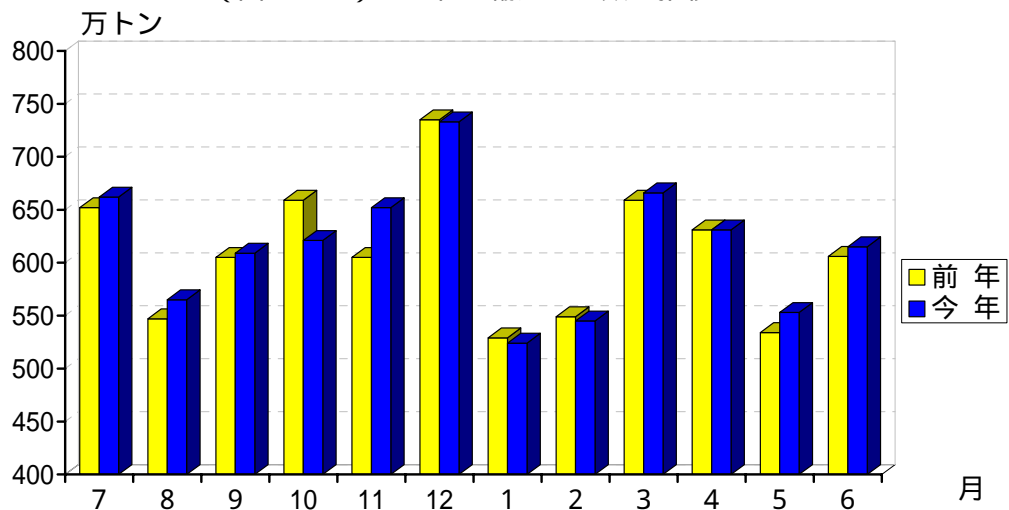
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,147,367トンで、前月と比べ、総輸送量が約62万トン増加したため、前月比111.1%（季節調整済み104.9%）、前年同月と比べ、約9万トン増加したため、前年同月比101.5%の実績であった。

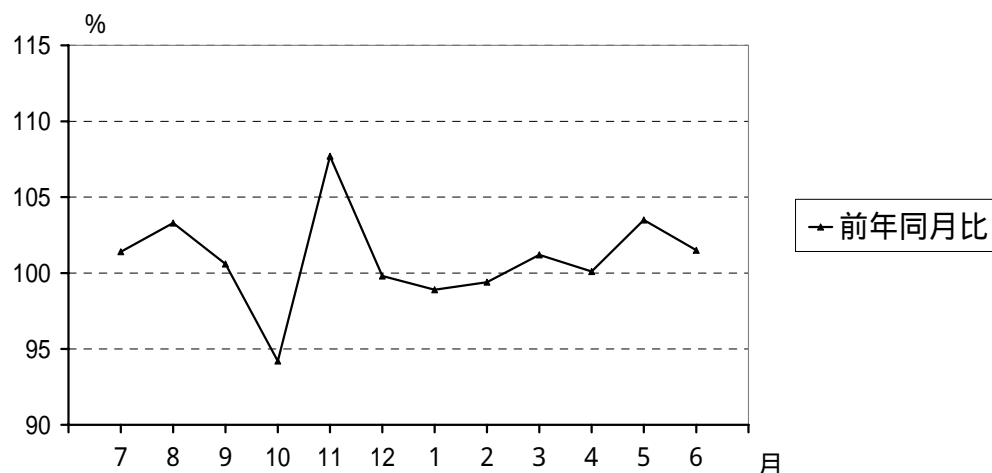
なお、平均稼働日数は、25.4日で、前月と比べ3.5日の増加、前年同月と比べて、0.1日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、242,022トンで、前月と比べ、約1万トン減少したため、前月比95.8%、前年同月と比べ、約3千トン増加したため、前年同月比101.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

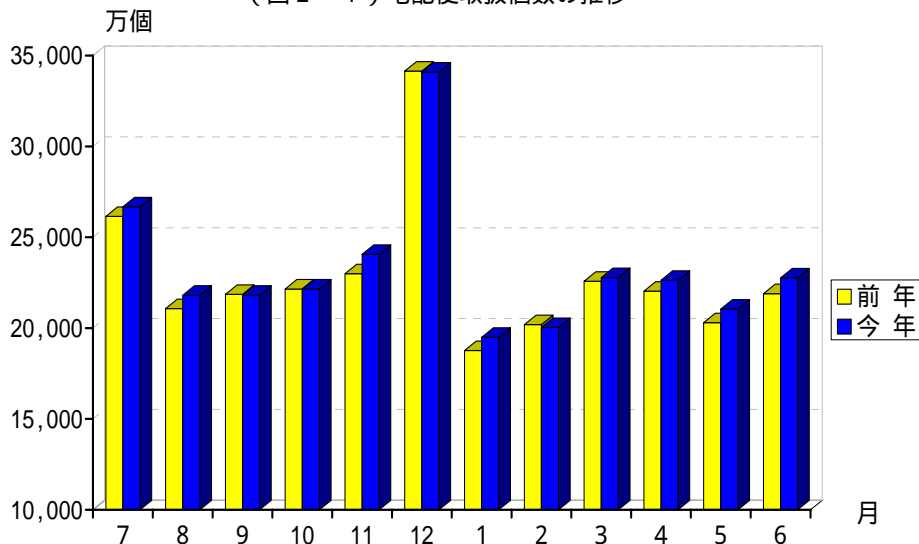


(2) 宅配便の概況

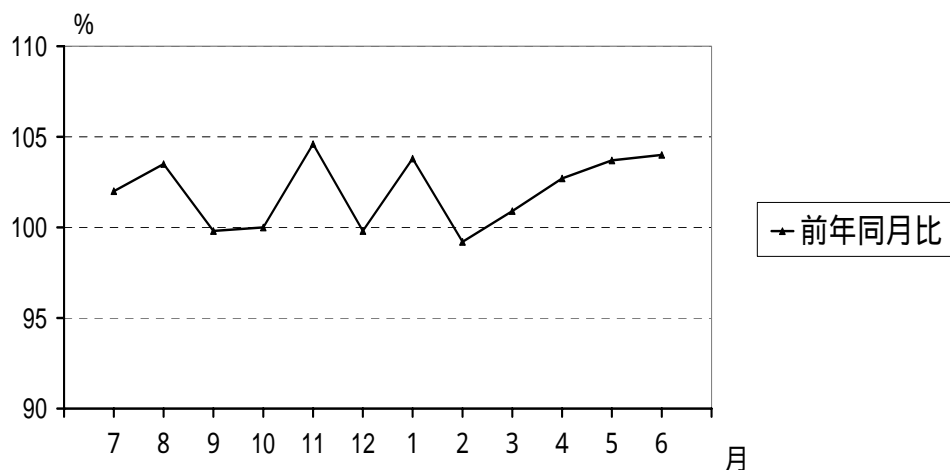
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、227,642 千個で、前月と比べ、約 1,717 万個増加したため、前月比 108.2% (季節調整済み 104.0%) 前年同月と比べると、約 869 万個増加したため、前年同月比 104.0% の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注) 平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく (平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、稼働日数が 3.5 日増加したこともあり、貨物量が全般的に増加した。理由としては、工場・生産地からの貨物増、倉庫から出る貨物増及び季節的需要増であった。また、食料工業品においては、商社・問屋からの貨物増が見られた。地域的には、農水産品の増加が東北、関東、中国を中心に見られたほか、その他の品目においては全国的に増加が見られた。

前年同月と比べると、金属製品、機械、食料工業品で、工場・生産地からの貨物増が見られた。また、食料工業品においては、商社・問屋からの貨物増も見られた。一方で、化学工業品、繊維工業品においては、工場・生産地からの貨物減が見られた。地域的には、金属製品については福岡、機械については神奈川を中心に増加が見られた。一方で、繊維工業品については、神奈川、北陸信越、愛知、中部を中心に減少が見られた。また、日用品については、関東を中心に減少が見られた。その他の品目では目立った増減を示したものはなかったことから、全体的には前年同月比 101.5% となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	3	11	1	野菜、青果物	東北、関東、中国	4
						農産品、魚介類		4
	金属製品	2	7	17		建築用金属製品、工具、その他の金属製品	東京、関東、北陸信越、愛知、福岡	4, 7, 8
	機械	1	14	12		電気機械、機械部品	神奈川、北陸信越、愛知、兵庫	4, 7, 8
	化学工業品		14	13	1	合成樹脂、その他の化学工業品	関東、愛知、大阪、兵庫、中国	1, 4, 7, 8
								4
繊維工業品		6	21	1	糸、織物	関東、北陸信越、中部、中国ほか	4, 8	
							4	
食料工業品		18	9		飲料、その他の食料工業品	東京、関東、愛知、大阪、近畿、中国	4, 5, 7, 8	
日用品	2	10	15	1	書籍・印刷物、その他の日用品	神奈川、関東ほか	4, 7, 8	
							4, 9	
その他	1	8	17	1	宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、関東、大阪ほか	8	
					百貨店配送品		2	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	3	青果物		4
						農産品	九州	4
	金属製品	2	4	17	2	その他の金属製品	福岡	4
						線材製品		4, 7
	機械		7	18	1	電気機械、機械部品	神奈川	4, 7
						機械部品		4
	化学工業品		5	18	4	その他の化学工業品	愛知、大阪、兵庫	4, 7
						化学薬品、染料、合成樹脂	神奈川、北陸信越、大阪	4, 7
	繊維工業品		1	22	4	全般		
						織物	神奈川、北陸信越、愛知、中部	4
	食料工業品		8	15	3	飲料	東北、東京、神奈川、関東、愛知、近畿	4, 5
						飲料		4, 7, 10
日用品		1	20	5				
					書籍・印刷物	関東	4, 5, 7, 9	
その他		3	20	4	宅配貨物、百貨店配送品		2	
					宅配貨物、百貨店配送品		2, 7	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 838 社 / 調査対象事業者数 1,075 社）の輸送量は、前年同月比 102.4%、前月比 111.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.4%	102.0%	105.1%	103.1%	101.8%	103.1%	101.5%	101.9%	103.8%	101.0%	94.0%
前 月 比	111.0%	123.9%	109.8%	108.2%	106.8%	107.6%	108.7%	108.4%	104.1%	104.9%	109.3%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、各種工事が活発化してきたところに好天に恵まれ、「砂利・砂・石材」「セメント」「木材」等の工事関連資材の輸送が順調に増加したこと等により、対前月比 123.9%となった。一方、対前年同月比をみると 102.0%であった。今後の見通しは、工事関連資材の輸送の増加により、次月及び以降とも増加傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、野菜及び果物（サクランボ）等の出荷時期により「野菜・果物」が、また、夏期に伴いビール、飲料水等の「食品工業品」の増加が目立った。このため対前月比は 109.8%であった。また、対前年同月比は 105.1%であった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいにあると思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、連休があった先月に比べて輸送量が増加し、対前月比は 108.2%であった。また、対前年同月比は 103.1%であった。季節的な要因により「野菜・果物」「食料工業品」が増加したほか、「機械」「紙・パルプ」「その他の石油製品」といった品目で増加が見られた。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、前月は連休があったことにより稼働日数が少なかったこと、また、建設工事関係資材の出荷増によって輸送が増加したことから、対前月比 106.8%と増加した。また、対前年同月比は 101.8%であった。今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいにあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 107.6%と増加し、対前年同月比についても 103.1%と増加した。品目別でみると、工場からの発送増及び季節的な需要増から「機械」「セメント」の増加がみられたのをはじめ、「日用品」「木材」「工業用非金属鉱物」等が増加した。一方、「繊維工業品」「その他の窯業品」「鉄鋼」「紙・パルプ」が減少した。今後の輸送の見通しは、次月及び以降ともほぼ横ばいにあると思われる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、連休のあった前月に比べ、稼働日数が増加したことにより、対前月比 108.7%と増加した。主に夏季商品の出荷増や季節的な需要増により「食料工業品（飲料・醤油・氷菓子）」や「取り合せ品（百貨店商品）」が増加した。一方で、紙器製造機受注減や輸出入減により「機械（産業機械・電気機械）」の減少がみられた。対前年同月比では 101.5%となった。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 108.4%と増加した。また、対前年同月比は 101.9%であった。品目別にみると、「野菜・果物」「水産品」が、好天に恵まれたことから増加し、「鉄鋼」「食料工業品」等工業製品が、先月よりも稼働日が増えたことにより増加した。一部「木材」等減少している品目があるが、全体的に輸送量は増加した。今後の見通しについては、次月及び以降とも管内全体では増加傾向にあると思われるが、山陰方面は逆に減少傾向にあると予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 104.1%、対前年同月比で 103.8%であった。季節的な需要減により「野菜・果物」、生産地からの輸送減により「木材」の輸送が減少したものの、建設工事件数増により「機械」、季節的な需要増により「食料工業品」「日用品」が増加したことをはじめ、「化学肥料」「紙・パルプ」の輸送が増加した。今後の輸送見通しは、次月は上昇傾向、以降はほぼ横ばい傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月は、稼働日数が先月と比べて多かったこともあり、輸送量は全体として増加し、対前月比は 104.9%となった。また、対前年同月比は 101.0%であった。特に増加が目立った品目としては、夏向け商品（飲料）の需要増により「食料工業品」、建設工事件数が増加したことにより、「砂利・砂・石材」「金属製品」「セメント」「廃棄物」等であった。一方、減少が目立った品目としては「野菜・果物」が挙げられるが、これは出荷時期が過ぎた作物の輸送減によるものと考えられる。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少の傾向にあると思われる。</p>
沖縄	<p>本月は、「取り合せ品（引越貨物）」「食料工業品（ビール、飲料等）」「機械（エレベーター製品・厨房器具）」の増加が見られたが、「紙・パルプ（ロールペーパー・段ボール）」「その他の農産品（切り花）」の輸送が減少している。全体では、対前月比では 109.3%、対前年同月比では 94.0%となった。今後の見通しについては、夏場の観光シーズンに伴い増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	道	海	道	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計
1. 穀物	増	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	6
	減	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5
2. 野菜・果物	増	0	9	1	1	0	1	0	1	2	1	3	0	18
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	0	10
3. その他の農産品	増	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
4. 畜産品	増	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3
5. 水産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	7
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6. 木材	増	6	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	10
	減	1	2	0	1	0	1	0	1	2	2	4	0	13
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	21	3	0	3	0	0	0	3	1	1	4	0	35
	減	2	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	0	6
11. 工業用非金属鉱物	増	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
12. 鉄鋼	増	0	1	0	2	0	1	0	1	3	0	5	0	12
	減	1	0	0	0	1	1	0	1	0	2	0	0	5
13. 非鉄金属	増	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 金属製品	増	0	0	1	4	1	0	1	0	2	0	6	0	14
	減	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	1	0	5
15. 機械	増	0	1	3	2	3	3	3	2	3	3	1	1	19
	減	0	0	1	0	0	2	1	0	1	0	2	0	6
16. セメント	増	2	2	0	1	2	1	1	3	1	1	8	0	20
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	5
17. その他の窯業品	増	2	1	0	4	1	0	1	0	5	2	2	0	17
	減	0	0	2	0	1	1	1	0	0	0	1	0	5

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	1	0	2	3	0	1	1	1	2	0	11
	減	1	0	1	0	0	0	2	1	1	0	6
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	2	0	0	0	0	2	0	1	0	5
	減	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3
22. 化学肥料	増	3	1	0	0	0	0	0	3	2	0	9
	減	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
23. その他の化学工業品	増	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
24. 紙・パルプ	増	1	0	3	0	0	2	2	3	1	0	12
	減	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	6
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食料工業品	増	2	12	2	2	0	4	5	5	13	1	46
	減	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
27. 日用品	増	1	2	0	2	1	2	3	2	2	0	15
	減	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	5
28. その他の製造工業品	増	0	0	2	1	0	0	1	0	2	0	6
	減	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	5
29. 金属くず	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	3	0	1	0	0	0	0	0	3	0	7
	減	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
32. 廃棄物	増	1	0	0	1	0	0	0	1	4	0	7
	減	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	3
33. 輸送用容器	増	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	0	0	0	0	0	3	0	1	1	1	6
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	4
35. その他	増	0	0	3	0	0	2	1	0	0	0	6
	減	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2